

文字が紡ぐ藝術

文字に脈打つ美と想い

古代中国を発祥の地に、東アジア圏より日本にもたらされたと伝わる文字——漢字。
総数五万字にもなる史上最多の文字数を持つ漢字は、我が国で固有の進化と深化を遂げ、平仮名、片仮名を編み出し、
世界でも類をみない独自の文字(言語)体系をつくりあげました。そして、文字はその誕生とともに、
情報と意思の伝達という役割を超えて、形そのものを藝術にまで昇華させた「書」をはじめ、
人々の創造力をみなもととする「文藝」を生み出しました。「書と文藝」展では、文字を通じて培ってきた
北九州と中国、韓国の友好を紹介するとともに、遙かな時のなかで綴られた心の姿、想いが紡いだ絆を一堂に披露します。

書

Calligraphy & Literature

文藝展

入場
無料
admission
FREE

主催／北九州市、東アジア文化都市北九州実行委員会

協力／北九州市書道連盟、北九書の祭典委員会○特別協力／日中韓三国協力事務局

東アジア文化都市開催地／日本―北九州市、中国―紹興市・敦煌市、韓国―順天市

お問合せ―北九州市市民文化スポーツ局 文化企画課 TEL 093-582-2391

8月27日(金)―9月12日(日) 午前10時―午後6時

入館は午後5時30分まで
※会期中無休

北九州市立美術館

小倉北區宝町一丁目一番一
号
リバーウォーク北九州5階

書と文藝展

8月27日(金) — 9月12日(日)
北九州市立美術館分館



漢字の起こり、発展と、日本への伝来

漢 字 を 旅 す る

古代中国・黄河文明期、人々の英知が甲骨文字をもとに創り上げた漢字。それは誕生から間もなく、朝鮮半島を経て弥生時代の倭国・日本に伝わりました。そして、仏教伝来以後、遣隋使・遣唐使などによる大陸との頻繁な交流を通じて、日本に浸透することになった漢字は、この国で特有の進化と深化を重ね、平仮名、片仮名を生み出し、独自の言語体系を有するに至りました。ここでは、日本はもとより東アジア圏に伝播していった漢字の発祥歴史、日本語の成立を解説資料で追体験していただきます。

言葉を編む、思いを綴る、北九州の文藝に魅る

言 葉 を 編 む

思いを視覚化する文字は、綴り手の創造力を解き放つ翼。いつの時代も、人々の尽きることをない表現欲求と呼応して、詩小説、随筆など、多様なかたちの文学を創り上げました。明治、大正、昭和と、近代産業の要衝として、日本をけん引していった北九州では、特色に満ちた文藝の土壌が育まれ、多くの文学作品を輩出していきました。ここでは、北九州をゆかりとする文学と、「書」の作品として披露し、市立文学館の収蔵資料の展示などと合わせて紹介していただきます。

藝術に昇華した文字、美の本質に触れる

躍 動 す る 「 書 」 の 美

太古の人々が言語の伝達、記録を目的に線や点を用いて創造した文字。誕生以来、文字は人と人を結び、人類社会の発展の礎となりました。甲骨文字をルーツに多様性に富んだ造形を持つ漢字は、文字そのものの姿を尊ぶ美術「書」に昇華していきました。世界に例のない美術としての要素を極めた文字の到達点です。ここでは、人々が文字に求めた美の足跡の紹介はもとより、北九州をはじめ日中韓の書家による秀作、美術としての書の新たな可能性を探求する「書道」作品を展示します。

国境を越えて、文字が結ぶ友好の和

文 字 が 結 ぶ 和

中国を発祥の地に、現在の越南、新嘉坡、台湾、朝鮮半島、日本へ広がった漢字。国境を越えて東アジアの国々に伝播していった文字は、文化、風習の異なる国々に根づき、漢字文化圏を形成していきました。そして、文字を同じくする国々は交流を盛んに、お互いの親和を深めることになりました。ここでは、文字が結んだ日中韓の友好の和を、合作のパネルで展示。これからも変わることのない友好への願いを「和」の書に託します。

